

受講番号 18023 学校名 高知追手前高等学校 氏名 小原 文

## 研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年2ホーム 生徒数 40 名  
 科目名 英語 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 Prominence English (東京書籍)

## クラスの様子・特徴

素直でかわいらしい生徒が多く、仲のよいクラスである。クラスマッチなどにも一致団結して取り組む姿勢があり、とても前向きである。英語を好きな生徒が大半であるが、高校の授業の速さや学習内容の多さに戸惑っている者も少なくない。

## 問題の確定

効果的な音読をするためにはどうすればよいか。 英文が頭に定着するにはどうすればよいか。

## 予備調査

## A 授業の観察

毎日の予習はほとんどの生徒ができていて、復習が不十分なようだ。授業中の音読などには積極的に取り組み、喜んでシャドイングやペアワークにも取り組む。今は文法・構文よりも、音読に興味があるように見受けられる。

## B 生徒による授業評価

音声指導や様々な音読活動を楽しんでいる生徒が多く、概ね授業に満足しているようだ。一方、発音記号や文法理解を難しいと感じている生徒や、CDが速すぎてシャドイングについていけない生徒もいた。フレーズ訳に戸惑いを感じるという意見もあった。

## C 学力データ

3月末の合格者登校日に受験したスタディーサポート学力検査によると、1-2Hの偏差値は54.8であった。学年の平均偏差値が55.3なので、少し低めの出発となった。

## リサーチ・クエスチョン

音声を中心とした指導をすれば英語力が向上するか。 意味を中心とした指導をすれば英語力が向上するか。

## 仮説・実践・検証

## 仮説1

様々な音読の仕方を授業に取り入れることで、生徒は飽きずに音読に取り組むことができる。音読を好きになれば、教科書の内容を繰り返し読むようになる。そうすれば、学習内容が頭に「定着」するのではないかな。

## 実践1

英語 の授業を音読中心に進め、様々な種類の音読の仕方を生徒に紹介する。家庭学習でも音読をしたりCDのシャドイングをするよう促す。

例) コーラスリーディング、Read & Look up、四方読み、鉛筆さし読み、シャドイング(一斉・ペア)、なりきり音読、ペア交互読み、ペア競争読み、など。

## 検証1

授業の活動では圧倒的に音読指導が人気を博しており、ほとんどの生徒が楽しく授業に参加できていた。特に、CDをシャドイングするのが面白いようで、そのことが自分の英語力向上に最も役立っていると考えている生徒が多かった。英語の4技能のうち上達したいスキルの順番を尋ねると、Speaking Listening Reading Writingという答えが一番多かった。

## 仮説2

質のよい音読を目指すことで、音読に対する生徒の動機をさらに高めることができる。きちんとした音声指導をすることで、シャドイングのつまづきを克服し、英文を速く読んだり聴き取ったりすることができる。(CDやnative speakerの速度についていけるようになる。)美しい音読ができるようになれば、自信にもつながる。

## 実践2

OC の授業で専門的な音声指導をし、英語 の授業のwarm-upに音声トレーニングを導入することで、毎日少しずつ英語の音声に慣れていく。

例) 発音・リズム・イントネーション指導、ABC発声練習、リズム練習、発音フラッシュカード、発音小テスト、なりきり発音練習、早口ことばなど。

## 検証2

音声に対する興味が膨らみ、細かい部分にまで気を配って英文を音読できるようになった。特に発音指導における音の「連結」、「脱落」、「強弱」の指導の後、ぐっと英文が聴き取りやすくなり、読みやすくなったと感じる生徒が多かった。(音読が楽になったとの声多数。)確実に「音」に対する意識が高まり、質の高い音読を目指す生徒が増えたようだ。一人一人音読の仕方が異なることや、感情移入の大切さを実感する生徒もでてきた。

## 仮説3

これまでの「音声」に焦点を当てた指導に加え、「意味」を中心に英文をしっかりと理解していくことで、学習内容をより頭に定着させることができる。  
 \* 音声のみに気がいってしまい、内容理解がおざなりになっている生徒が見受けられたので、この仮説を立てた。また、7月の全国模試の結果が芳しくなかったことも一因である。

## 実践3

秋になって難易度が増してきた英語 の教科書の内容を、今後は「意味」をよく考えながら読んでいくことを生徒に伝えた。文法や構文の重要ポイントを書き込んだ説明プリントを配布し、授業中もそれらの点を強調しながら意味理解を確実にしていった。チョークの色も統一し、後でノートを見たときに分かりやすい工夫をした。音読やシャドイングの時も、「意味」を考えながら行うように指示をした。

## 検証3

文法や構文のポイントを書き込んだ説明プリントや、チョークの色を統一した板書も非常に好評で、英文理解の助けとなったという意見が多かった。また、そのことが自分の英語の成績アップの要因と考える生徒も少なくなかった。この方法は9月の最初から実施したのだが、11月の全国模試結果では1-2Hのクラス偏差値が上がっており、学年の平均偏差値を上回ることができた。伸び率としては、全クラスで一番であった。

## 研究の成果

前半の4ヶ月は「音声」に焦点を当てた指導を行い、発音・リズム・イントネーションなどの細かい点にも気をつけて、美しく英文を読むよう指導した。その結果、生徒は音読に興味を持つようになり、気持ちを込めて滑らかに英文を読めるようになった。クラスで実施した「音読大賞」も大いに盛り上がり、上手な生徒の発表を聴いて多くの生徒が刺激を受けた。後半の4ヶ月は「意味」に焦点を当てた指導を行い、難易度が増してきた英文を、まずは意味を確実に理解することを目標にし、文法・構文をしっかり押さえるように指導した。その結果、生徒は教科書の内容や重要ポイントをより頭に残すことができるようになり、模試の成績アップにもつながった。

## 今後の授業改善の課題

「音声」と「意味」の両方をうまく連動させて指導することで、生徒の興味を喚起し、実力をつけさせるような授業展開を目指したい。様々な工夫を試みながらも、常に生徒の現状をよく把握して、その時々合った授業を模索していきたい。英語の魅力を十分感じさせながらきちんとした英語力をつけさせ、生徒の進路実現の助けとなる授業を目標とする。レベル別の指導も念頭に置き、それぞれの段階にある生徒に的確な指示を出したい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-873-6141 電子メール